

A large white graphic of a musical note with a vertical stem and a circular head, enclosed within a white circle. The background behind the text is a halftone pattern of small white dots on a red background.

**REAL PUBLICITY
FOR ARTS**

TOA

音楽と教育の

意識調査 2008

TOA音楽と教育の意識調査2008

発行にあたり

2008.5

TOA音楽と教育の意識調査2008

主催 TOA株式会社 社会貢献・メセナ担当 吉村真也

子どもたちの教育の中で音楽の果たす役割と、保護者の意識に着目した本調査も、二年目を迎えました。2007年度の調査では、保護者が学校の音楽教育に期待することのトップが「音楽を好きになること」であることが明らかになりました。ではなぜ、「知識の獲得」に加え、「音楽を好きになる」ことを保護者は重視するのでしょうか。

2008年度はこの点に着目し、科目を学ぶことによって得られる知識以外の要素について調査を行いました。とりわけ、「心の豊かさ」「表現する力」「コミュニケーション力」など、子どもが将来社会で生きていくにあたって必要な力の育成が、どの科目によって育まれると保護者は考えているのか。調査を通して、他の科目に比べて音楽などの芸術科目が色濃く持つ要素を探ります。

また、2007年度調査によれば、約8割の保護者が「企業が学校教育の支援活動を行うこと」を「望ましい」と考えていることが明らかになりました。防犯、福祉など、あらゆる生活環境において、「地域」の果たす役割が再認識されている昨今、地域の一員である企業に対しても、子どもたちの教育に相応の役割を果たすことが求められています。教育現場と手を取りあって、自社ならではの個性的な手法で教育に貢献することは、もはや企業の社会的責任であるといえます。

なお、本調査は、社会学の専門家によるアンケート項目の設計、また、子どもの教育と芸術に関する専門NPOの監修のもと、各分野の専門スタッフにより客観的な視点から実施されています。得られた結果は、TOAグループの社会貢献活動の指針として、今後の企画立案に反映され、より社会的ニーズに合致した活動の継続を目指します。

CONTENTS

- 2 TOA音楽と教育の意識調査2008 発行にあたり [TOA株式会社 吉村真也]
- 3 TOAグループの社会貢献活動 紹介
- 4 アンケート調査結果
- 10 音楽の魅力と子どもたち ~調査結果によせて~
[子どもとアーティストの出会い 井手上春香]
- 11 募集のご案内 TOA Music Workshop 2008
- 12 TOA Music Workshopの歩み

TOA音楽と教育の意識調査2008 調査概要

調査対象	全国の男女500名（男性250名、女性250名／30代250名、40代250名） 下の子ども年代と性別（未就学男子104名、未就学女子130名、小学校男子71名、小学校女子61名 中学校男子32名、中学校女子31名、高校男子28名、高校女子17名、その他26名）
調査方法	Web調査
調査期間	2008年3月25日（火）～3月28日（金）

TOAグループの社会貢献活動

—それぞれの世代に、それぞれのカタチで。「TOA Meet! Music! Concept」—

TOAグループでは、業務用音響機器と映像機器の専門メーカーとして培ってきた技術や自社資源を有効活用し、数多くのイベントや文化・芸術活動を、音と映像の分野からサポートしています。自社ホール「XEPEC HALL」では、自主企画として様々な音にまつわる芸術活動を展開。特に音楽と教育に関わる活動に力を注ぎ、次代を担う子どもたちに、音楽の楽しさを伝え続けています。

子どもたちの成長の過程には、それぞれの世代に、それぞれのカタチでの音楽との出会いがあります。TOAでは、「TOA Meet! Music! Concept」と題し、子どもの成長にあわせた、音楽に関わる4つの社会貢献プログラムを展開しています。

小中学生を対象とした「TOA Music Workshop」では、音楽との最初の出会い、仲間とともに音楽に参加する喜びや楽しさを。中学生を対象にした「トライやる・ウィークシリーズ」では、作品を創作し発表するという、音楽を創る喜びを。中高校生を対象にした「神戸JAZZ」では、ステージスタッフなどの裏方も含めた音楽のプロと接し、音楽で生きるための世界への扉を開きます。そして、専門学校生・大学生を対象とした「匠ワークショップ」では、プロの技を伝え、明日の音楽の担い手を育成します。

音楽と接することで、子どもたちに自身の音楽性や表現力を再認識してもらいたい。そして、今まで知らなかった「新しい自分」に出会ってもらいたい。そのためにできることを、私たちは続けていきたいと思えます。TOAが伝えたいのは、子どもたちの可能性。これまでも、これからも、TOAは音楽との素晴らしい出会いをサポートしていきます。

[専門学校・大学生] **プロの技を学ぶ**

匠 Workshop

[中学生～高校生] **プロへの道しるべ**

神戸JAZZ

[中学生] **音楽を創る**

トライやる・ウィーク

[小学生～中学生] **音楽と出会う**

TOA Music Workshop



TOA社会貢献宣言

TOAグループは、社会から信頼される「良き企業市民」として、多様な社会問題の解決に向けた取組みを自発的に行い、社会に貢献します。自社資源を有効に活用し、本業である「音と映像」との関連性を強く意識した独自の活動を行うことで、社会と共に発展していく「かけがえのない企業」になることを目指します。

男の子は「水泳」、女の子は「ピアノ・エレクトーン」が習い事の1位

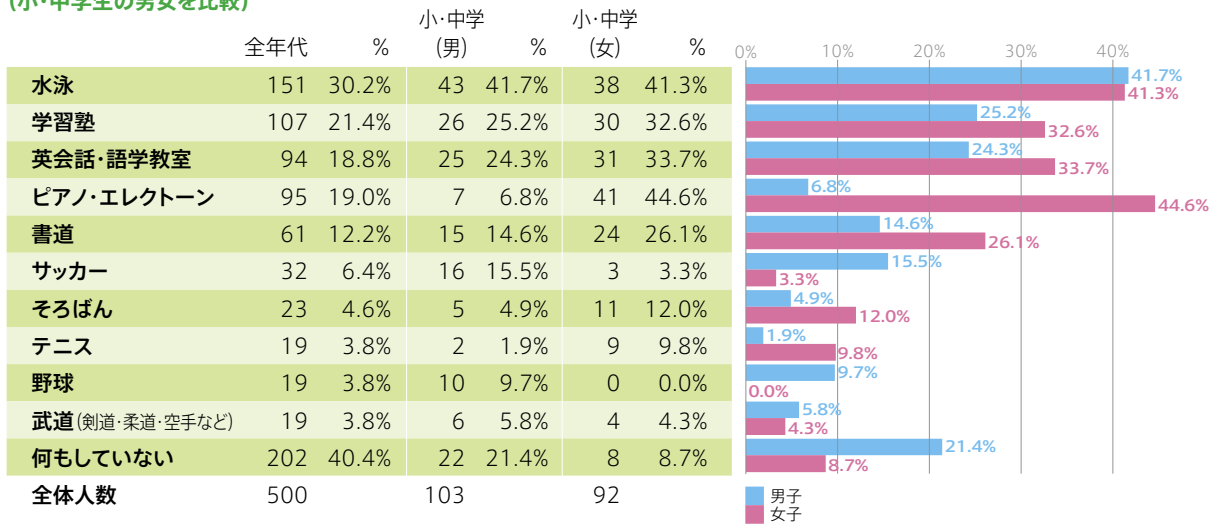
すすんで習った割合は20ポイント近い差がつく

～集団での習い事はすすんで習う割合が高い傾向に。「音楽」だけが例外に～

今の子どもの習い事の1位は、男の子は「水泳」で女の子は「ピアノ・エレクトーン」だった。習い事の中ですすんで習った割合が高かったのは「(水泳を除く)スポーツ」と「音楽」で、「そろばん」「学習塾」「水泳」は平均を下回った。親自身は習い事の印象的な思い出として「一体感」「友達との絆が深まったこと」をあげるケースが多く、集団でおこなう習い事は総じて人気が高かったが「ピアノ・エレクトーン」は例外となった。

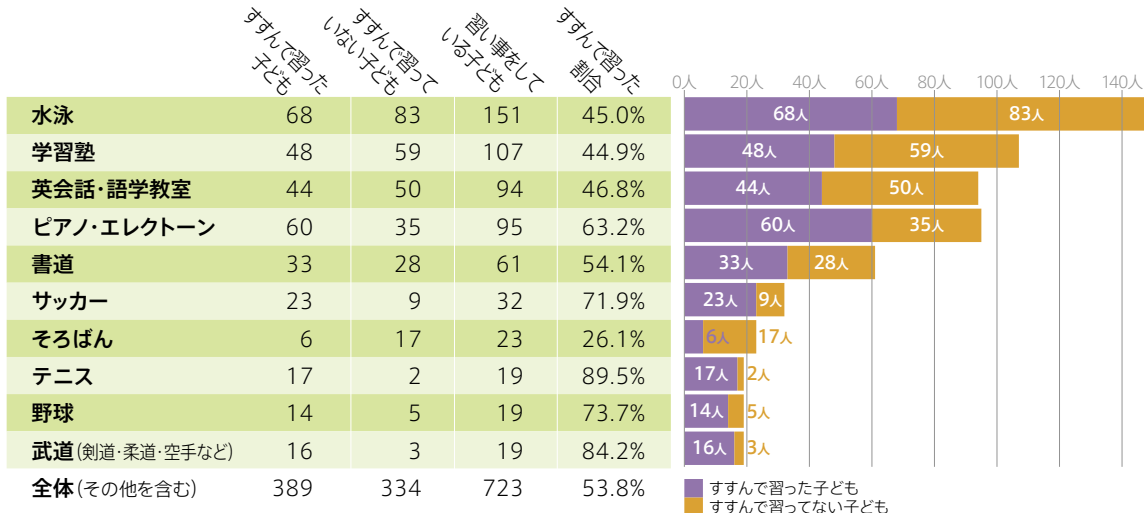
これまでに、お子さんはどんな習い事をしてきましたか(複数回答の上位10種類を抜粋) n=500

(小・中学生の男女を比較)



スポーツを除く「文化・芸術」「学習」に関する習い事全般で「女の子」の習う割合が「男の子」を上回った。

習い事の中でお子さんがすすんでいきたいと言ったものは何ですか(複数回答) n=389



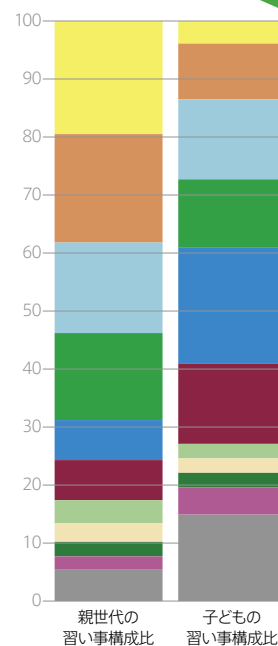
子ども自身がすすんで習った割合はスポーツが全般的に高く、文化・芸術系では「ピアノ・エレクトーン」が高かった。ただスポーツの中で「水泳」だけはすすんで習った割合が半数以下で、親のすすめで習うケースが多いことがわかった。

あなた自身(親)は、小学生～中学生の頃、どんな習い事をしていましたか

習い事の中であなたがすすんでいきたいと言ったものは何ですか n=441

※複数回答の習い事全体の数を100%とした場合の構成比

	親世代の 習い事構成比	子どもの 習い事構成比	親自身が すすんで習い 事をした割合	子どもが すすんで習い 事をした割合
そろばん	19.5%	3.9%	36.9%	26.1%
書道	18.7%	9.6%	26.8%	54.1%
学習塾	15.6%	13.8%	29.2%	44.9%
ピアノ・エレクトーン	15.0%	11.8%	40.4%	63.2%
水泳	6.9%	20.0%	32.1%	45.0%
英会話・語学教室	6.9%	13.8%	33.3%	46.8%
野球	4.0%	2.5%	71.7%	73.7%
武道	3.2%	2.5%	55.6%	84.2%
絵画	2.5%	2.5%	48.3%	61.1%
サッカー	2.3%	4.7%	80.8%	71.9%
その他	5.4%	14.9%	-	-
合計	100.0%	100.0%	平均37.6%	平均53.8%



親世代の習い事の定番である「そろばん」と「書道」を習う子どもは急激に減少したが、「ピアノ・エレクトーン」は根強い人気を保っている。

あなたご自身が習い事をしていたときの楽しかった思い出や印象的な思い出を教えてください。

(自由記入抜粋)

- ピアノ** 自分がピアノを弾くということにすごく興味が出て、すすんで習いたいと思いだしてから弾き方が変わって先生にそれを指摘されたこと。(40代・女性)
- エレクトーン** エレクトーンของกลุ่มレッスンをしていたが、色々な年の方と友達になれて楽しかった。発表会の為に、ほかのクラスの人も練習すると、先生の教え方にも差があることを知った。(40代・女性)
- 絵画** 絵画を習っている時に皆で話をしながら絵を描いたのが楽しかった。(40代・女性)
- 絵画** 終わってからみんなとファーストフードを食べたこと。うまく絵が描けて両親に誉められたこと(40代・女性)
- そろばん** そろばんだけじゃなくて、季節のイベントもやってくれたので、とても楽しかったです。(30代・女性)
- そろばん** 皆とわきアイアイで、先生も親しみやすく楽しかったし、そろばん塾では計算勝負があり当たった人は点数を貰い、集めて好きな商品と交換出来たりした事が頑張って楽しく通えた!(30代・女性)
- 書道** うまくかけた時のうれしさと、段位が上がった時のうれしさ。そのほかは、終わった後の友達との団圓。(30代・男性)
- 学習塾** 学習塾へ行く前に、友達とスーパーのフードコートに寄り道したり、遊びながら行き帰りする道が楽しかった(40代・女性)
- 学習塾** 小さい塾に通っていたので、他の学校の友達が出来た。(40代・女性)
- 英会話** 英会話教室で、夏休みに3泊くらいの合宿をして、アメリカの子どもたちと交流をした事が楽しくて印象に残っています。(40代・女性)
- 水泳** スイミングスクールの帰りのバス代を節約して、友達と歩いて帰り、ジュースを飲むのが楽しかった。水泳帰りはとても気持ちがよかった。(30代・女性)
- 野球** 自分にとって初めてチームワークというものを教わって「みんなで勝つ」という喜びを感じた(30代・男性)
- 野球** 練習は苦しかったがいろいろな仲間ができた(30代・男性)
- サッカー** 自分の通う小学校の中の習い事だったので皆知ってる人ばかりで学校外で試合などで仲良くなる連帯感が生まれた。(30代・女性)
- サッカー** 集団でスポーツすることが初めてでとても楽しかった思い出がある(40代・男性)
- バスケット** バスケットの合宿が毎年あり、友達と夜遅くまで話し込んで楽しかった。修学旅行を先取りしてたような。(40代・男性)
- 空手** 空手をやっていた際に夏の合宿の後のスイカわりやキャンプファイヤーや、冬の寒稽古の後のもちつきなど、空手以外にもいろいろな体験をした。(30代・男性)

子どもが生きていく上で 最も必要な力は「心の豊かさ」と 「コミュニケーション力」が半数を超える

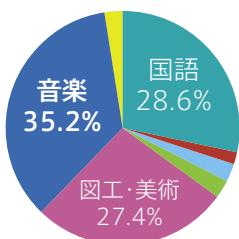
～「心の豊かさ」を育てることに役立つ科目は「音楽」が3人に1人でトップ～

子どもが生きていく上でどんな力が必要だと思うかを親に尋ねたところ、「心の豊かさ」と「コミュニケーション力」が半数を超え、他を引き離れた。

心の豊かさを育てることにもっとも役立つと思う科目は「音楽」が最も高く、「国語」と「図工・美術」が続いた。子どもに必要なと思う力の上位3つの力を養うと思う科目は、「国語」と「音楽」という回答が目立った。

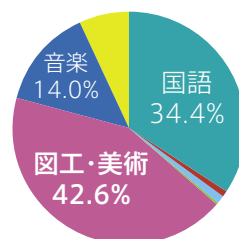
心の豊かさを育てることにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	143	28.6%
算数・数学	8	1.6%
理科	12	2.4%
社会	12	2.4%
図工・美術	137	27.4%
音楽	176	35.2%
外国語	12	2.4%
全体	500	100.0%



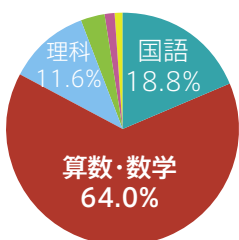
表現する力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	172	34.4%
算数・数学	3	0.6%
理科	6	1.2%
社会	2	0.4%
図工・美術	213	42.6%
音楽	70	14.0%
外国語	34	6.8%
全体	500	100.0%



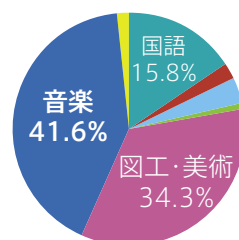
論理的に物事を考える力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	94	18.8%
算数・数学	320	64.0%
理科	58	11.6%
社会	16	3.2%
図工・美術	7	1.4%
音楽	0	0.0%
外国語	5	1.0%
全体	500	100.0%



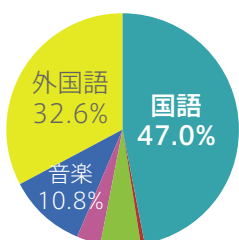
繊細な感受性を育てるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	79	15.8%
算数・数学	11	2.2%
理科	17	3.4%
社会	5	1.0%
図工・美術	172	34.4%
音楽	208	41.6%
外国語	8	1.6%
全体	500	100.0%



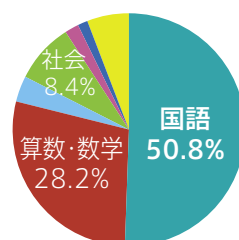
人とコミュニケーションする能力を高めるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	235	47.0%
算数・数学	3	0.6%
理科	0	0.0%
社会	28	5.6%
図工・美術	17	3.4%
音楽	54	10.8%
外国語	163	32.6%
全体	500	100.0%



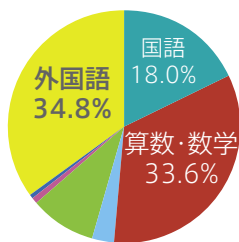
総合的な学力を高めるためにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	254	50.8%
算数・数学	141	28.2%
理科	18	3.6%
社会	42	8.4%
図工・美術	10	2.0%
音楽	6	1.2%
外国語	29	5.8%
全体	500	100.0%



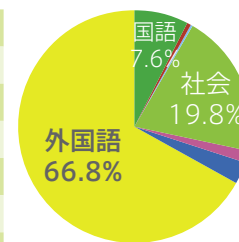
競争社会を生き抜くためにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	90	18.0%
算数・数学	168	33.6%
理科	15	3.0%
社会	46	9.2%
図工・美術	4	0.8%
音楽	3	0.6%
外国語	174	34.8%
全体	500	100.0%



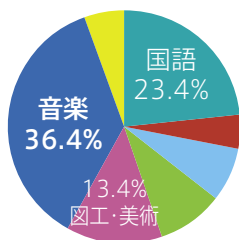
異文化を理解する力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	38	7.6%
算数・数学	3	0.6%
理科	2	0.4%
社会	99	19.8%
図工・美術	9	1.8%
音楽	15	3.0%
外国語	334	66.8%
全体	500	100.0%



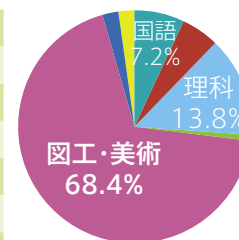
日々の生活を楽しく暮らすのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	117	23.4%
算数・数学	24	4.8%
理科	37	7.4%
社会	46	9.2%
図工・美術	67	13.4%
音楽	182	36.4%
外国語	27	5.4%
全体	500	100.0%



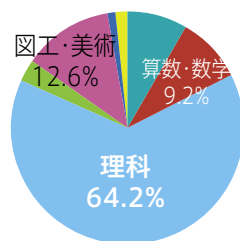
自分の力で新しいものを創り出す力を身につけるのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	36	7.2%
算数・数学	26	5.2%
理科	69	13.8%
社会	5	1.0%
図工・美術	342	68.4%
音楽	11	2.2%
外国語	11	2.2%
全体	500	100.0%



注意深い観察力を養うのにもっとも役立つのは、どの科目だと思いますか n=500

国語	42	8.4%
算数・数学	46	9.2%
理科	321	64.2%
社会	15	3.0%
図工・美術	63	12.6%
音楽	6	1.2%
外国語	7	1.4%
全体	500	100.0%



子どもが生きていく上で、最も必要だと親が思っている力は「心の豊かさ」で、その力を高めるのに最も役立つのは「音楽」という結果になった。
回答比率はそれぞれ異なるが、上位3つの力を見ると「国語」と「音楽」が目立つ。

お子さんが生きていくうえで、どんな力が必要だと思いますか(3つまで)

※空欄は該当する質問項目なし n=500

順位 (複数回答)	N	%	1位	2位	3位
1 心の豊かさ	265	53.0%	音楽	国語	図工・美術
2 コミュニケーション力	253	50.6%	国語	外国語	音楽
3 表現する力	117	23.4%	図工・美術	国語	音楽
4 協調性	112	22.4%			
5 行動力	101	20.2%			
6 論理的に物事を考える力	97	19.4%	算数・数学	国語	理科
7 粘り強さ	95	19.0%			
8 自由な想像力	85	17.0%	図工・美術	理科	国語
9 明るさ	77	15.4%	音楽	国語	図工・美術
10 気持ちのゆとり	74	14.8%			
11 強い信念	73	14.6%			
12 他人への共感	44	8.8%	理科	図工・美術	算数・数学
13 躍動的な生命力	20	4.0%			
14 高収入	17	3.4%	外国語	算数・数学	国語
15 異文化への理解	12	2.4%	外国語	社会	国語
16 繊細な感受性	11	2.2%	音楽	図工・美術	国語
17 その他	7	1.4%			
18 高学歴	5	1.0%	国語	算数・数学	社会
全体	500	100.0%			

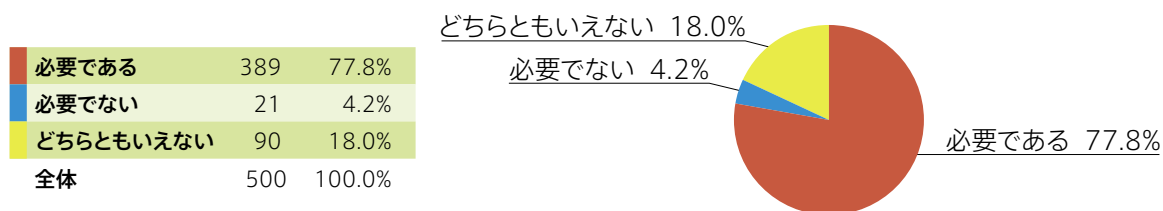
音楽の授業の必要性を感じている保護者は約8割 授業以外の音楽とのふれあいも約7割が必要性を認識

～「授業」や「習い事」ではなく、音楽の本質とふれあえる場も必要に～

学校での音楽の授業については保護者の約8割が必要と答えており、「心の豊かさ」を養うという音楽そのものが持つ効果に加えて、音楽知識や演奏技術の習得にも期待を寄せていることがわかった。

知識の取得を目的としない、授業以外の音楽のふれあいの必要性を認識している保護者は約7割にのぼり、心の豊かさを育成するためにできるかぎり音楽との接点を増やしたいと考えている保護者が多数を占めた。ただ授業以外の音楽とのふれあいの必要性を感じつつも習い事の「費用」を心配する保護者も多く、「授業」でも「習い事」でもない、経済的な負担がなく音楽の本質とふれあえる場が求められている。

あなたのお子さんにとって、学校での音楽の授業が必要だと思いますか n=500

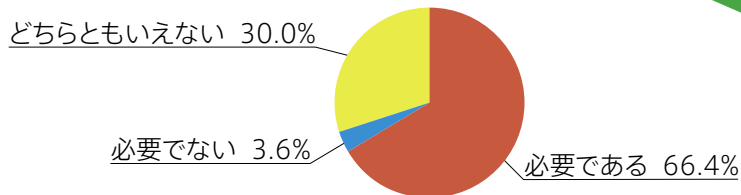


そう答えた理由を教えてください(自由記入の抜粋)

- 必要である**
- 音楽に親しむことは心を豊かにするため(40代・女性)
 - 一般教養として少しは歴史や楽曲名を知っていても良いと思うから(30代・女性)
 - 情操教育にはかせません。合唱合奏を通して、ハーモニーの素晴らしさを学んでほしい(40代・女性)
 - 教養として最低限の知識は必要だと思うから(30代・男性)
 - 家で楽器を演奏するとうるさいから(30代・男性)
 - 大勢でしか出来ないことがあります。学校での合唱や合奏など、楽しい思い出です。ただ、今の学校事情はどうなのか、みんなで音楽を楽しめれば、の話です。(30代・女性)
 - 音楽を聞くことで、感情が豊かになり、情緒が安定すると思うから(30代・男性)
 - 音楽により創造性が作られる(40代・女性)
 - まだ子供が乳幼児ですが、音のなるおもちゃや、両親が歌うとはしゃぐので『音』はとても大切だと思う。クラシックや童謡など色々な音に触れる事は子供の成長にとって重要だと感じる。(30代・男性)
- 必要でない**
- 将来の役にたつかが疑問だから(30代・女性)
- どちらともいえない**
- 音楽は義務で教えるものではないと思うから。
 - 自分から進んで好きな音楽ジャンルを楽しむもの(40代・男性)
 - 上質な音楽を聴かせる事には賛成で気持ちや心を育てる面で良いと思いますが勉強としての音楽は、音符の勉強等必要に思わない。(40代・男性)

あなたのお子さんにとって、学校の授業以外に、音楽に触れる機会は必要だと思いますか n=500

必要である	332	66.4%
必要でない	18	3.6%
どちらともいえない	150	30.0%
全体	500	100.0%

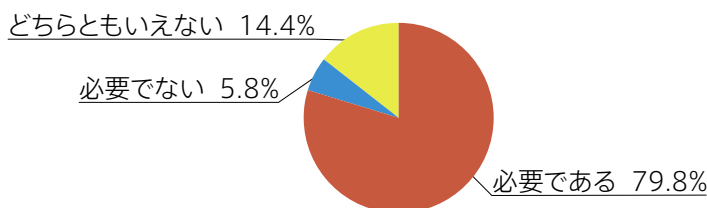


そう答えた理由を教えてください(自由記入の抜粋)

- 必要である**
- 音楽は授業で習う音楽だけでないということを知っておいた方が良いと思う。(40代・男性)
 - 感受性を深めるのに音楽に触れる機会は多いほうがいい(40代・男性)
 - 学校以外にそういう場を持つことで、学校では補い切れないことが学べる(30代・女性)
 - 学校で習う音楽以外にも、いろいろなジャンルの音楽や楽器に触れる機会が増える(40代・女性)
 - 音楽が好きになり人生が変わるかもしれない(30代・男性)
 - 友達とのコミュニケーションの手段になる。(30代・女性)
- 必要でない**
- 学校の授業で充分だと思うので(40代・男性)
- どちらともいえない**
- 本人が興味を持てば、その時にやればいい(30代・男性)
 - 触れることは必要と思いますが、経済的にムリです。本当は、通わせてあげたい。(30代・女性)
 - 本人がものすごくやりたければやらせるが、費用がかかるので自分から薦めるつもりはない(30代・女性)

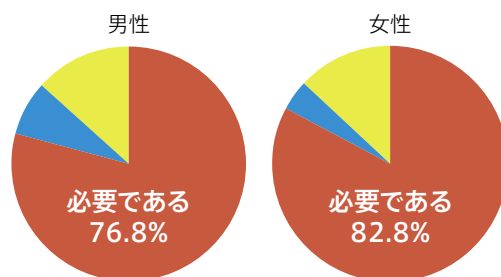
あなたにとって、音楽は必要ですか n=500

必要である	399	79.8%
必要ではない	29	5.8%
どちらともいえない	72	14.4%
全体	500	100.0%



あなたにとって、音楽は必要ですか(男女別) n=500

	男性N	女性N	男性%	女性%
必要である	192	207	76.8%	82.8%
必要ではない	18	11	7.2%	4.4%
どちらともいえない	40	32	16.0%	12.8%
全体	250	250	100.0%	100.0%



そう答えた理由を教えてください(自由記入の抜粋)

- 必要である**
- 音楽で前向きになったり心が癒されたりする事があるので(30代・女性)
 - 1人で楽しむこともできるし2人、または大勢で楽しむこともできる。コミュニケーションの手段にもなるし目的にもなりえる事は他にないと思う(30代・女性)
 - 理屈でなく、精神的な豊かさ、音から感じるもの想像力を忘れないで欲しい(30代・女性)
 - 思春期に音楽に支えられたことが多かったし、音楽を通じて友達と仲良くできたりしたので(30代・女性)
 - 音楽が必要でない人なんかいないと思う。それではあまりにも無味乾燥な人生ではないのでしょうか(40代・男性)
 - 心の栄養だと思います(30代・男性)
 - みんなと一緒に歌うことで楽しくなるから(30代・男性)
 - 音楽は万国共通のコミュニケーションツールであり、他人、自己を癒す効果があるから(40代・男性)
- 必要でない**
- 社会人になって役に立っていない(30代・男性)
- どちらともいえない**
- あればアルでよいが、無くても困らない(40代・女性)
 - 大人になって特に必要ではないが音楽の授業は楽しめる唯一の授業だったと思う(30代・女性)
 - 音痴で音楽の時間が嫌いだったです(30代・女性)

音楽の魅力と子どもたち ～調査結果によせて～

子どもとアーティストの出会い 代表 井手上春香

普遍的な人気の音楽の習い事

子どもたちの習い事について親世代・子世代を比較した結果、「そろばん」の減少、「英会話」「サッカー」の増加など、その傾向にある程度の時代性を見出すことができます。その一方で、時代を超えて共通しているのは、スポーツなど仲間とのコミュニケーションを伴う集団的な習い事の人気の高さです。親世代からも、習い事の思い出として友人たちと一緒に頑張ったことや、ともに楽しい時間を過ごせたことが印象的だったという声が寄せられました。ところで、「ピアノ・エレクトーン」も時代を超えて普遍的な人気を示す習い事のひとつです。しかしこれらは比較的、個人レッスンの要素が強く、人気の高い集団的な習い事の中ではやや例外的であるようです。また「ピアノ・エレクトーン」は人気の高い習い事の中でも、子どもが自ら進んで習いはじめた割合がとりわけ高いという結果が出ています。音楽の習い事は、仲間と一緒に取り組む集団的な習い事ではないにも関わらず、時代を超えて求められているようです。その理由は、どこにあるのでしょうか。

子どもに必要な力

その答えは、いくつかの調査結果から読み取ることができます。親が子どもに身につけてほしい力のうち、上位3位を占めたのは「心の豊かさ」「表現する力」「コミュニケーション力」でした。また、これらはいずれも音楽教育によって身につくと考えている親が多いということが判明しました。変化の激しい現代社会において、自分の考えを持ちつつも他者と協調するコミュニケーション力、他人を思いやることや感動することのできる豊かな心は「生きる力」として学校教育の中心軸となっています。子どもたちの学力低下が騒がれるなかでも、社会や親が子どもたちに望むことは、さまざまな出来事を感じて受け入れ、自己を表現し、それらを他者と共有していける力なのです。

音楽の魅力

学校での音楽の授業について、保護者の約8割が必要と回答し、音楽知識や演奏技術の習得に加えて、感受性を豊かにすることや音楽の楽しさを知ることが期待されています。これは、授業以外での音楽の必要性を指摘する親が7割に上ることが裏付けています。では、子どもたちは音楽とどう関わっているのでしょうか。楽器を演奏することが楽しい、リズムに乗ることが気持ちいい、音からいろいろな想像が膨らむ……。そしてなにより、音楽に触れてドキドキ・ワクワクすること、何かを感じ、それをまわりの友達と共有する体験こそが、彼らにとっての音楽の魅力なのではないでしょうか。音楽は言語力や知識・技術の有無を超え、ダイレクトに心に訴える力を持っています。そして、それぞれが感じたことが共鳴しあうことで新しいコミュニケーションが生まれ、新たな自分や他者を知るきっかけとなりえるのです。

これからの教育と音楽

2011年から完全実施される新学習指導要領には、「生きる力」の育成として、基礎知識・技術の習得とともに思考力や表現力、判断力等の育成が具体的な項目として各教科に盛り込まれました。今回の調査で示されたのは、これらの力の育成において、音楽が果たすことができる可能性です。音楽が持つ言語を超えたコミュニケーションの力は、感じ取る力や表現する力と並び、国際化・多様化する社会の中を生きていくうえで必ず必要な力であると信じます。音楽にふれることで、子供たちがのびのびと豊かに成長していくことを、願って止みません。

もっとひらいて! もっとはずんで!

新しい自分、発見。 無料ワークショップ参加校募集!

ひとりひとり違うリズム。ひとりひとり違う表現。
まったく違う個性をもった子どもたち、
他の人とは違ってあたりまえ。

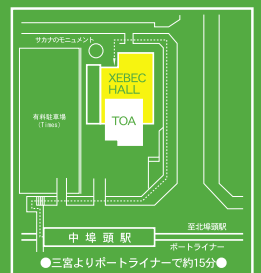
子どもたち100人には、100通りの音楽があります。
勇気をだして自由に表現すれば、子どもたちの音楽は、
こんなにも素晴らしい。
それは今まで、子どもたち自身も知らなかったこと。
音楽を通じて、新しい自分自身にきっと出会える。

TOAでは「小中学生のための世界の
民族楽器シリーズ」(1999～2004年)や
中学生を対象とした体験活動週間「トライやる・ウィーク」の
受入れプログラム(1998年～継続中)など、
プロの音楽家と子どもたちが出会い、音楽体験をする
ワークショップ・プログラムを行ってきました。
これらの経験をベースに、2005年から
「TOA Music Workshop」シリーズを新たに展開しています。

2005年度は「リズム」と「身体表現」テーマに、2006年度は
「音を出すこと」と「音を聴くこと」をテーマとして開催。
2007年度・2008年度は、「心を開いて音楽に向きあうこと」
「音楽を通して自分を表現すること」をテーマとします。
ジャワガムランやアジア・アフリカの民族楽器など、多様な音楽に
触れることでひとりひとりの音楽的感性を引き出し、
「音楽に触れる喜び、音楽で表現する楽しさ」を学びます。
さまざまな角度から音楽にアプローチする音楽家と子どもたちが
つくりだす、新しい音にご期待ください。
皆様のご参加、お待ちしております。

実施期間 2008年9月～2009年3月 (詳細日程は、参加校との調整による)
実施場所 ジーベックホール (神戸市中央区港島中町7-2-1)、
または参加校校内施設
*ジーベックホールへご来場いただいたのワークショップか、
参加校内での出張ワークショップかを、選択いただけます。
対象 小学校中学年～中学生
参加費 無料
*ジーベックホールにご来場いただく場合の交通費などは参加者負担
募集校 3校を公募
アーティスト
HANA★JOSS (ジャワガムランユニット)、
UOO MOO (民族音楽ユニット)
*都合により、出演者が変更になる場合があります

主催 TOA株式会社
企画・制作 子どもとアーティストの出会い
株式会社ジーベック
後援 兵庫県教育委員会(予定)



XEBEC HALL
神戸ポートアイランド
ジーベックホール
〒650 神戸市中央区港島中町7-2-1
TOA-PIビル TEL 078 303-5600

ワークショップの前半は、ジャワガムラン、アジア・アフリカの民族楽器などの世界の音楽を体験します。後半は、インドネシアの民族音楽「ケチャ」を、本ワークショップ向けにアレンジしたオリジナルプログラム「お茶ケチャ」を中心に、子どもたちと音楽家全員参加による「即興ライブパフォーマンス」に挑戦します。

このワークショップでは、子どもたちが主体的に音楽に参加し、今まで知らなかった自分自身の表現力に気付くことを目的とします。

※他校の教員や音楽関係者の見学、メディアによる取材が可能な、公開ワークショップとさせていただきます。

参加人数 各回 200名以内

日程 2008年9月～2009年3月までの期間で、調整の上確定

時間 2時間程度

会場 ジーベックホール(神戸市中央区港島中町7-2-1)、
または参加校校内施設
*ジーベックホールへご来場いただいたワークショップか、参加校内での出張ワークショップかを、選択いただけます。

募集校 3校

- *人数によっては、複数校共同開催も可
- *来場可能であれば、学校所在地は問わず
- *出張ワークショップの場合は、関西圏の学校に限る

アーティスト・プロフィール

HANA★JOSS (はな★じよす/ROFIT IBRAHIM・佐々木宏実)

2002年11月にインドネシアジョグジャカルタで結成されたガムランユニット。ジャワ島中部のガムランと影絵芝居ワヤンの上演、ガムランの新曲製作、また他ジャンル楽器とのコラボレーションなど出会いを求めて笑いや感動を模索しながら2005年より京都を拠点に活動中。

申込方法 お申込みご希望の方は必要事項[学校名、学年、人数、希望時期、学校住所、担当者名、電話、FAX、E-mail]をご記入の上、郵送・FAXまたはE-mailにてお申込みください。申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

*希望時期は目安の日程を第2希望までご記入ください。

ご参加頂けることが決定した段階で、調整の上確定させていただきます。

*参加学校施設内でワークショップを実施する場合は、開始時間の約2時間前より、使用会場にて機材等のセッティングをさせていただきます。

また、ワークショップ終了後、現状復帰に30分～1時間程度かかります。

申込締切 2008年5月31日(土)

申込・問合せ先

子どもとアーティストの出会い (担当:いdegami)

住所 〒604-8222

京都市中京区観音堂町466 みやこ3階

電話 090-6731-8598

FAX 075-231-8607

E-mail idegami@arts-staff.net

UOO MOO (うー むー/夏秋文彦・中北裕子)

1999年に結成。カリンバ、ジャンベ、ウドウドラム、口琴、鍵盤ハーモニカ等、数々の楽器を操りその独特な"リズム"、"メロディー"、そして"倍音"の絡み合う国籍不明音楽世界をクリエイト。"地球の音を丸ごとこねてころがして"をキャッチフレーズに多種多様のエッセンスを取り入れ新しい音楽をつくり出している。

TOA Music Workshopの歩み

テーマ 小中学生のための"リズムと身体表現"

参加アーティスト 金子雄生(トランペット奏者、民族音楽家)

実施日程 2005年9月9日、10月26、27日、
11月10、11日、2006年2月15日

参加者数 計358名

テーマ ぼくを鳴らそう、わたしを聴こう

参加アーティスト 高岡大祐(チューバ奏者、音楽家)
櫻井響(ヒューマン・ビート・ボックス)

実施日程 2006年9月15日、11月9日、11月15日、
12月13日

参加者数 計400名

テーマ もっとひらいて! もっとはずんで!

参加アーティスト HANA★JOSS(ジャワガムランユニット)
UOOMOO(民族音楽ユニット)

実施日程 2007年11月5日、2008年1月22日、3月4日

参加者数 計234名

写真(p11とも) :2007年度 もっとひらいて! もっとはずんで!



TOA 音楽と教育の意識調査2008

主催 TOA株式会社
監修 子どもとアーティストの出会い
調査設計 NPO法人 recip
デザイン NPO法人 アートNPOリンク
印刷 株式会社 エスコアハーツ
発行 株式会社 PRリンク
発行日 2008年5月

本冊子についてのお問合せ先

TOA株式会社
社会貢献・メセナ担当 吉村真也
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-2-1
TEL 078-303-5631 FAX 078-303-5633
E-mail yoshimura_shinya@toa.co.jp